

[第1回]

LAC
株式会社ラック

代表取締役社長

西本逸郎氏



「日本社会の守護者」を目指して ～テレワークの成功の秘訣は「雑談力」～

日本社会における情報セキュリティを支えてきた(株)ラックは、新型コロナウイルス感染拡大を契機に、「新日常」に合わせた事業の革新を進めており、その成果を他の企業にも広げようとしている。

新企画「会員企業トップインタビュー」の第1回目は、会員各社にとって、今後の事業活動に必要不可欠となる、情報セキュリティを担う(株)ラックの西本逸郎社長をお訪ねした。

今回のインタビューでは、豪放磊落さと緻密さを併せ備えた西本逸郎社長から、その事業革新のポイントをお聞きした。

**創業の精神は、
「小さくなっていく地球の中で、
日本社会を守る」**

—(株)ラックと言えば、情報セキュリティの世界では、知らない人はいない企業だと思っていますが、はじめに、御社の創業の理念や沿革について、ご説明いただけますか。

西本 当社は、分社化などにより企業形態の変遷はありますが、元々は1986年にソフトウェアの受託開発を行う会社として創業いたしました。創業当初は、世の中のIT化の流れに乗っていたのですが、1990年代から始まったITバブル崩壊により、業容が悪化し、「このままではいけない」という

ことで始めたのが、現在当社の屋台骨の一つとなっている「情報セキュリティ事業」です。

(株)ラック(LAC)は、「Little eArth Corporation」の略であり、ITの利用で今後小さくなっていく地球上で活躍する企業を目指すという意味が込められています。また、創業者はいつも、「国を衛



2017年7月にリニューアルしたJSOCは、ホワイトハッカーをイメージした白を基調とするデザイン。約900団体、約2,000センサーの監視、分析を行っており、その数は国内最大規模を誇る。

る」「日本社会を守る」ということを言い続けておりました。その意味で、「情報セキュリティ事業」に踏み出す素地は、初めからあったとも言えます。

— 御社の「情報セキュリティ事業」と言えば、「JSOC」が有名ですね。

西本 JSOC (ジェイソック; Japan Security Operation Center) は、お客様企業のセキュリティ監視・運用サービスの拠点であり、2000年から運用を開始しております。365日、24時間体制で、「セキュリティアナリスト」と呼ばれるプロフェッショナルのエンジニアが、お客様企業に対する不正アクセスの監視と対応を行っているわけです。

新型コロナウイルス感染拡大が起こった際に、私が心配したことの一つが、このJSOCでした。仮に、JSOCのエンジニアの一人が感染し、他のエンジニアが濃厚接触者ということで出社できない、さらにJSOCの封鎖ということになれば、JSOCの機能は停止してしまいます。それぞれのエンジニアは、情報セキュリティのプロフェッショナル

であり、簡単に他の者で代替できるわけではないからです。

当社では、新型コロナウイルス感染拡大以前から、リモートワークの推進について検討を進めておりましたが、今回、テレワークを実施する緊急の必要性に迫られたわけです。

リモートワーク成功の秘訣は？

— ここで、本日私が一番お聞きしたい話題に移りたいと思います。それは、「リモートワークをいかに成功させるか」ということです。「新日常」の中で、多くの企業がリモートワークを取り入れていますが、成功している企業はあまり多くないと承知しています。

他方、(株)ラックでは、最近自社の経験も踏まえて、「テレワーク導入便覧」を公開されました。何が、リモートワーク成功の秘訣なのかを、お伺いできればと思います。

西本 まず、当社が発表した「テレワーク導入便覧」をご紹介いただきありがとうございます。お陰様で様々なお問い合わせもあり、好評だと自負しております。

私どものビジネスは、工場のような現場を持っておりませんので、その意味ではリモートワークはやりやすい業種と言えるかもしれません。

しかし、我々が行っているシステムインテグレーション (SI) のビジネスでは、弊社の社員がお客様企業に常駐しているケースが多く、仕事を持ち帰ることもお客様企業のご了解なしにはできません。したがって、まず、「『新日常』の中で、弊社の社員がリモートワークを行うことが、お客様企業にとってもメリットとなる」ということを理解していただくのが結構大変でした。

— 実際にリモートワークを本格導入されて、困ったということはないのでしょうか。

西本 問題は、様々にあります。まず、総務や経理といったコーポレート部門では、書類の山で、ハンコを押さない仕事になりません。

また、何か仕事上のトラブルが生じた際に、オフィスで仕事を行っているときは、「あそこで社員が集まって、コソコソ何かを話している。これは何かあったに違いない」と社長の私が見つけることが



容易で、初期の段階で消火ができました。これがテレワークになると、「火が燃え盛ってから社長に話が届く」ということになりがちです。さらに、誰かが上司から注意を受けているのを見ていれば、他の社員も「同じような失敗はしないようにしよう」と気づく機会となりますが、テレワークではなかなかそうしたことも起こりません。

—テレワークでは、社内のコミュニケーションが希薄になりやすいということでしょうか。

西本 テレワークでは、インプットとアウトプット双方向のコミュニケーションがうまくいかないことが生じがちです。この状況を打開するために、私が重視しているのが「雑談力」です。当社では、社内会議の前に雑談して、リラックスしてから仕事の話に移ります。雑談ですから、途中参加や退出も自由で、話題も「昨晚の夕食はおいしかった」とか「テレワークをしていると、女房がうるさい」など、たわいのない話がほとんどです。最初は、毎朝始業前に30分間雑談をする、ということから始めたのですが、今は様々な会議の前に、「雑談タイム」を設けています。当社には「技術屋」が多くいるのですが、一般的に言って、彼らは雑談がうまくありません。私は、「筋トレのように毎日訓練して『雑談力』を身につけろ」と叱咤激励しています。

リモートワーク 成功のための雑談

—リモートワークに向く人、向かない人といったことはあるのでしょうか。

西本 一般的に言って、若い人はITを使ったコミュニケーションに慣れていています。当社では、コロナ禍の新人社員教育をリモートで行いましたが、特に問題はありません。新入社員同士のコミュニケーションも、とれているようです。ただし、「愛社精神を育てる」といったことは、リモートでは難しいようです。他方、シニア層は「オフィスでの仕事」を好む人が多いようです。今まで平日の昼間にオフィスに出ていた人は、家での居場所がないのかもしれない。また、世代・性別にかかわらずリモートワークにストレスを感じる人も一定数おります。男性エンジニアは、一人きりで仕事することに違和感があまりないようなのですが、同僚との「おしゃべりタイム」がないのは大変寂しく孤独感を感じる社員もおるようです。

—西本社長は、そうした人たちのために、「社長ラジオ」を始められた、と聞きました。

西本 リモートワークを本格導入してから、「お昼のひと時」というオンライン雑談を始めましたが、大体私が話してますので、思い切って社内ラジオに切り替えました。「週2回私が雑談をするので、時間がある人は聞いてください」といった感じでした。そのうち、せっかくだから、会社の経営計画を説明してくださいなどと言われて、ならばということでラジオにしました。社員が経営計画に興味を持ってくれたことは、大変良かったと思っています。また、私が一方的に話すだけでなく、社員からの「お便り」を読む、といったコーナーも設けており大人気で私は今やラジオパーソナリティです(笑)。

西本 逸郎 (にしもと いつろう)

1958年生まれ。福岡県北九州市出身。
1984年 4月 株式会社日本コンピューター・サービスセンター
(現 情報技術開発株式会社)入社
1986年10月 株式会社ラック入社
1991年 4月 同社 取締役
2014年 4月 同社 取締役 兼 専務執行役員 CTO
2014年 9月 株式会社ブロードバンドタワー 社外取締役(現任)
2017年 4月 同社 代表取締役社長(現任)



プログラマーとして数多くの情報通信技術システムの開発や企画を担当。2000年より、情報通信技術の社会化を支えるため、サイバーセキュリティ分野にて新たな脅威への研究や対策に邁進。わかりやすさをモットーに、サイバーセキュリティ対策の観点で、官庁や公益法人、企業、大学、各種イベントやセミナーなどでの講演や新聞・雑誌への寄稿、テレビやラジオなどでコメントなど多数実施。

— お客様企業に常駐されている社員も多いと聞きましたが。

西本 そういった社員は孤独感を感じやすいので、私が出向いて一緒に昼食をとり、様々な話をするようにしていました。現在は新型コロナウイルス感染拡大で中断していることもあり、誰でも参加のできる雑談会やラジオを始めたところもあります。

品位と尊重、情熱と結束、規律と格闘

— 最近、北九州市に「ラックテクノセンター北九州」をお作りになりましたが、これは、西本社長が北九州市出身ということにも関係しているのでしょうか。

西本 そう誤解する方も多いのですが、全くそうしたことなく、純粋に当社が研究開発拠点を作るのであれば、北九州市が最適地である、と判断したためです。まず、北九州市役所の方々が積極的ですし、古くから鉄鋼業をはじめとする製造業の伝統があり、工業系の大学や高校が集まるなど、人材の確保も容易です。もちろん、私は生まれ育った北九州市を愛しており、微力ながら地元のサッカーチーム（ギラヴァンツ北

九州）も応援させていただいております。

— 最後に、西本社長の経営理念をお伺いしたいのですが。

西本 当社の行動憲章の中で、「品位と尊重、情熱と結束、規律と格闘」ということを掲げています。私は、学生時代にラグビーをしていたのですが、その中で、ラグビーは、「格闘」故に品位と尊重の上にルールを守るという規律が重要で、さらに勝ち抜いていくためには、情熱、結束といったことが大切だということを学びました。ビジネスの世界も、ラグビーと同様「格闘」です。もちろん、ビジネスパートナーとの間では「Win-Win」の関係を目指すという意味で、ラグビーと全く同じで



はありませんが、行動力憲章として大いに参考になります。

— 本日は、たいへんありがとうございました。

インタビュー後記

訪問を終えて、私はこんなことを考えました。「豪放磊落さ」と「緻密さ」は、どこか相反することのように考えがちですが、人が人との間で仕事をする中において、人間力の基なのかも知れないと。西本社長は学生時代にラグビーを経験されて、個人の力とチームの力の出し方を体得されたのかもしれない。これからの日本に必要な情報セキュリティの分野において、双方を併せ持つ西本社長のご活躍を期待したいと思います。

聞き手：当協会専務理事
前野 陽一

会員企業データ

社 名：株式会社ラック
 事業内容：セキュリティソリューションサービス／システムインテグレーションサービス／情報システム関連商品の販売およびサービス
 設立：2007年10月1日
 所在地：東京都千代田区平河町2丁目16番1号 平河町森タワー
 従業員数：連結 2,270名(2020年4月1日現在)
 ホームページ：https://www.lac.co.jp/

(株)ラック様の「テレワーク導入便覧」は、同社のホームページから無料でダウンロードできます。

https://www.lac.co.jp/lacwatch/service/20200825_002261.html

